

シダレウメ (バラ科/サクラ属 Prunus mume form. pendula)

剪定例

我が家から最寄駅に出る途中のお宅です。

毎年、見事な花を咲かせているので、どのように管理(剪定)されているのか、2012年春剪定直後から今年春の開花までを追ってみました。みなさんのご参考になれば・・・。



2012年4月8日撮影 ↑

全体樹形

枝部分詳細

開花した枝を、3～8芽ほど残し、原則、上芽で剪定されています。一部、下芽の部分もあるようですが・・・。黒く太い枝が昨年枝、緑色のかかった枝が今年の開花枝です。剪定後は、ハナガラに残っている部分から新しい枝が出、これに蕾が付きます。このお宅では3～8芽と多めに残して剪定されています。長浜の盆梅展で業者さんから聞いた話ですが、開花した枝は、1～2芽残し、上芽残しで切戻すと剪定後に伸びる新枝が少なくなり、しかも真下に伸びる枝が無くなり、優雅でかつスッキリするそうです。

多めに残した場合、新枝が出た後、再度、下の伸びる枝を剪定すると良くなると思います。

一方、全体樹形は古い枝の残し方によって大きく変わります。古い枝をどのように残すかが、庭木としてのポイントになりそうです。



2012年5月19日撮影 ↑

新枝が伸び、元気に育っているようです。

【樹木・草花の部屋】



2013年1月1日撮影 ↑

去年の剪定後に伸びた枝に蕾ができています。落葉後のため、新枝の付け根や成長の状態が良く解ると思います。すでに、去年の開花枝は黒みがかっています。少し、枝数が多いように感じますがいかがでしょうか？

真下に伸びる枝が少ないようです。花後の剪定の後、再度剪定されたのではないのでしょうか？

新枝に蕾が付くとは言っても、付き方の少ない枝や、全く付かない枝もあると思います。これらも、除去する必要があると思います。梅雨明け頃と秋の剪定でカバー。



2013年3月8日撮影 ↑

新枝にできた蕾が開花。見事です。

庭木となると、枝数が大変多く、しかも樹形も大型になります。鋏を入れる回数も中途半端な数ではないと思います。この後の剪定が大変です。